

びわこの 考湖学

水と陸 湖岸は交通結節点

琵琶湖は『万葉集』には「八十の瀨」に、「湖は八十」「泊八十あり」などとうたわれています。実際に80カ所の港が古代の琵琶湖に存在していたことを示しているのではなく、「琵琶湖にはたくさん港がある」ということを意味しているのです。

また、「大津」をはじめとして、「唐崎」「比良浦」「真長浦」「阿渡水門」「塩津」「菅浦」などといった港がたくさん詠みこまれています。

今回は、たくさんあったとされる古代における琵琶湖の港の一つを見てみることにしましょう。

現在の野洲市西河原周辺は、古代においては「馬道郷」と呼ばれていました。

「馬」の「道」、すなわち主要な道路が通っており、それにかかわる施設が存在していたことを示しています。

西河原周辺に位置する遺跡(西河原遺跡群)からは、規模の大きな建物や倉庫、大量の土器や木製品が出土しています。中でも、役所的な性格を示す木簡(木の札に文字を記した木簡)が多量に見つかっていることで広く知られています。

西河原森ノ内遺跡2次2号木簡と呼んでいるものには、琵琶湖周辺の交通について記されています。7世紀後半ごろの木簡で、長さ41センチ、幅3.5センチ、厚さ2

センチの板面に、「棕」という人が「稲」を運ぶ馬を得

ミナトは八十あり

ることができなかったの地点は、現在では湖岸からう

で、「卜部」という人に3.5センチほど離れていま

「衣知評平留五十声」(現すが、当時の湖岸線は程近

在の彦根市稲里・上岡部付いところまで迫っていました

近の「巨波博士」の家まで。つまり、西河原遺跡群

で「舟人」を率いて取りにの付近には、港があったと

行くようにとの指示が記さ考えられます。ただ、木簡

れていました。つまり、稲に記されているように湖上

を馬で運ぶことができなかった交通のみではなく、陸上交

ったので、舟で運べという通路も発達しており、どち

のです。5を選択してもよかったと代の瓦は寺院もしくは役所

西河原遺跡群の位置するいうことになるのでしょ

ら、そこに港湾施設があったのです。

陸上交通が発達した現在、琵琶湖は厄介な障害物

たのではないかと考えられています。

つまり、文献からも考古学のようにもとらえられがち

資料からも、琵琶湖岸には運河さながらに舟が行き交

80カ所とはいわぬまでも、陸上の交通路と密接に

も、数多くの港湾施設が点在、陸上の交通体系を作

在していたことがわかります。また、西河原森ノ内遺

り上げられていたことがわかるのです。

からみ合った交通体系を作

かかるといえるでしょう。

(滋賀県文化財保護協会 畑中英)



野洲市の西河原遺跡から出土した木簡の両面。稲を彦根から舟で運ぶようにとの指示が記されている